

○消防吏員A・B II 教養試験問題例

[No. 1] 日本国憲法における被疑者・被告人の権利に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

1. 公務員による拷問は、犯罪による処罰の場合を除いては許されない。
2. 被告人には弁護人を依頼する権利が憲法上保障されているが、いまだ被疑者の段階では弁護人を依頼する権利は保障されていない。
3. 何人も、現行犯として逮捕される場合を除いては、検察官が発する令状によらなければ逮捕されない。
4. 被告人には、公平な裁判を受ける権利は保障されるが、迅速な裁判を受ける権利までは保障されない。
5. 何人も、自己に不利益な唯一の証拠が本人の自白である場合、有罪とされない。

[No. 2] A、B、C、D、E、Fの6人の年齢について、次のア～オのことがわかっているとき、確実にいえることとして、最も適切なものはどれか。

- ア AはBと2歳違い、Fとは5歳違う。
- イ CはBより5歳年上である。
- ウ DはFより2歳年下である。
- エ DとEは2歳違う。
- オ EよりもCのほうが年下である。

1. Cが最年長である。
2. Aは2番目に若い。
3. EはBよりも年下である。
4. CとFの年齢差は5歳である。
5. Aは6人の平均年齢よりも年上である。

[No. 3] 次のア～エの項目を満たすヨーロッパの国として、最も適切なものはどれか。

- ア 国土面積は日本よりも小さい。
- イ 人口は日本の約半分である。
- ウ 気候はおおむね地中海性気候である。
- エ 南部と北部では経済格差がある。

1. スペイン
2. オランダ王国
3. フランス共和国
4. イタリア共和国
5. グレートブリテン及び北部アイルランド連合王国